

小絹中学校グランドデザイン

茨城県の教育目標

ひとりひとりの能力を開発し 豊かな人間性をつちかう
 じょうぶな身体をつくり たくましい心を養う
 郷土を愛し 協力しあう心を育てる

つくばみらい市学校教育目標

○個性と創造性に富み、確かな学力を身につけた”みらい”の子を育てる
 ○グローバルな視野をもち、郷土愛に満ちた”みらい”の子を育てる
 ○心身ともに健康で、自他を大切にできる”みらい”の子を育てる

いばらき教育プラン(基本理念)

活力があり、県民が日本一幸せな県

目指す児童生徒像

・多様な学びに、意欲を持って柔軟に取り組み児童生徒
 ・個性を尊重しながら、他者と協働的に活動する児童生徒

学校教育目標

<長期目標>

すぐれた品性と豊かな知性のある、心身ともにたくましい生徒を育成する

小中共通の目指す児童生徒像

- 主体的に学び続ける子ども
- 思いやりがあり、協力できる子ども
- 健やかでたくましく、挑戦する子ども
- 地域や社会に開かれ、貢献できる子ども

小中共通の教育目標

- 確かな学力の育成
 - 豊かな心の育成
 - 健やかな体の育成
 - 社会参画力の育成
- 思考力、判断力、表現力
 道徳心、思いやり、協働
 心身の健康、粘り強く挑戦
 地域貢献、国際社会で活躍

学校経営方針

<組織目標>

多様な他者との関わりを通して、未来を生きる生徒の自己有用感を高める

校内研究テーマ

生徒の自己有用感を高める指導の在り方

～多様な他者との関わりを通して知識・技能を定着させ、
 自己の考えを広げながら
 適切な表現ができる生徒の育成を通して～

生徒会スローガン

上下一心

～全員の帆をかかげて

新しい道を切り拓く～



<確かな学力の向上>

重点目標: 学び方をデザインする
 具体的な取組

○基礎的・基本的な知識の定着

- ・自主学習の機会確保と家庭学習の習慣付け
- ・学習における効果的な課題の提示

○主体的・対話的で深い学びの実現

- ・探求的な学びの充実
 (習得した概念や考え方を活用して解決する学習の実施)
- ・まとめとふりかえりによる表現力の向上

○個に応じた多様な指導方法の工夫

- ・授業の中に自己決定の場を提供
- ・デジタルドリル、紙媒体ワーク等の適切な活用
- ・「家庭学習の手引き」の活用と相互評価

数値目標(学校評価アンケート[生徒])

- 学びたいことを学ぶことができた 70%
- 家庭学習に取り組んでいる 80%
- 家庭学習に主体的に取り組んでいる 70%



<豊かな心の育成>

重点目標: 自己有用感の向上
 具体的な取組

○生徒の居場所づくり

- ・すべての生徒に活躍の場と互いに認め合う機会の確保(授業づくり・集団づくり)
- ・共感的な人間関係の育成
 (朝の絵画鑑賞、ピアサポートの実践)
- ・生徒の自治的活動への支援(生徒会活動)
- ・学校、保護者、地域で関わる校内フリースクール

○規範意識の向上

- ・学校、家庭における情報モラル教育の推進
- ・道徳教育の充実
 (多様な価値観の人々と協働して問題解決する意欲を育む現代的な課題)

数値目標(学校評価アンケート[生徒])

- 学校生活が充実している 90%
- 生徒の悩みに手助けしている 60%



<健やかな体の育成>

重点目標: 健康・安全への意識向上
 具体的な取組

○自己管理能力の向上

- ・外部講師を招いた保健教育の実施
 (薬物乱用防止教室、性に関する講演会、がん教育など)
- ・「保健・安全学びの記録」活用により学びを可視化
- ・「食に関する指導」の実施
- ・危機予測・回避能力育成のための指導の実施
 (交通安全教室、不審者を想定した訓練、防災教育)

○主体的な運動の推進による体力の向上

- ・走力、筋力を向上させる活動の実施
 (準備運動としてのランニング、器械運動の充実、校内駅伝に向けての練習)

数値目標(学校評価アンケート[生徒])

- 健康や安全を意識した生活をしている 80%
- 運動に意欲的に取り組んでいる 75%
- 体カテスト総合評価(A+B)-(C+D) 55%



<時代の変化に対応できる教育の推進>

重点目標: 自分をスキルアップさせる力の向上
 具体的な取組

○体験活動・キャリア教育の充実

- ・起業家精神の醸成(係活動、委員会活動)
- ・職場見学、社会人講話の実施
- ・「キャリアパスポート」の活用(行事の前後)

○ICT活用の推進

- ・多様な他者と協働するためのICT活用
 (生成AI、授業支援アプリ「Metamoji Classroom」の活用)

数値目標(学校評価アンケート[生徒])

- 夢や目標をもって生活している 70%
- 親子で将来のことを話している 50%
- 学習に効果のあるICTを活用している 70%



<教育支援の拡充>

重点目標: 自分で課題を解決できる力の向上
 具体的な取組

○一人一人に応じた適切な指導や必要な支援の充実

- ・通常の学級における指導・支援の充実
 (多様性を尊重した学級経営、合理的配慮提供)
- ・「個別の指導計画」に基づく指導・支援の充実
- ・特別支援教育に関する研修の実施
 (校内教育支援委員会、特別支援学級部会の定期実施)
- ・伊奈特別支援学校との連携

数値目標(学校評価アンケート[生徒])

- 授業が分かった・できたと実感している 90%
- 能力に合わせた活動を用意されている 85%



<開かれた学校作りと家庭・地域との連携>

重点目標: 社会に開かれた安全・安心な学校づくり
 具体的な取組

○地域人材や保護者の教育活動への参加

- ・地域の回覧とホームページによる情報発信
- ・コミュニティ・スクールのボランティア募集機能活用
- ・学校評価による教育活動の改善
- ・学校を参観できる機会の増設

○地域で活躍する場の設定

- ・総合的な学習の時間に「地域や社会をよくするための課題解決型学習」の新設

数値目標(学校評価アンケート[保護者])

- 学校からの情報が伝わっている 95%
- 家庭・地域と連携して教育活動をしている 60%



<教職員の資質・能力の向上>

重点目標: キャリアステージに応じて求められる資質能力の向上
 具体的な取組

○「研修シート」を活用した研修への主体的な参加

- ・外部での研修の奨励(研修センター希望講座、オンライン研修等)

○校内の教職員同士が学び合う仕組みの構築

- ・職員会議でのミニ研修(授業づくり、保健、特別支援教育)
- ・外部での研修内容を教職員で共有する場の設定
 (「アフタヌーンティー研修」)
- ・相互授業参観と振り返りの実施

数値目標(教員評価、教職員へのアンケート)

- 校内研修等により、資質や能力を高めることができた 90%



<働きがいの向上を踏まえた働き方改革の推進>

重点目標: 教職員のパフォーマンス向上
 具体的な取組

○校務DXの推進

- ・生成AI、校務支援システム、デジタル採点ソフト活用による業務改善

○心理的安全性を確保した職場づくり

- ・自己の考えを発言できる場の確保
 (一人一役。生徒指導部会、特別支援教育部会などの部会の実施)
- ・ピアサポートを取り入れた会議の実施

数値目標(在校等時間調査、教員評価面談、教職員へのアンケート)

- 超過在校等時間 45 時間以内の教職員 50%
- 自分の力を発揮できている 75%



